

統計利用者の利便性向上を図るため、各府省が政府統計の総合窓口（e-Stat）に掲載する機械判読可能な統計表を作成する上で留意すべき事項について取りまとめ、統一ルールとして策定（令和2年12月）

（各府省のシステム更改、外注等により即時対応できないものは、準備出来次第対応）

■ ルールの内容（例）

時間軸の扱い	<ul style="list-style-type: none"> 西暦とするか、和暦に西暦を併記すること 印刷・見栄えを意識した空白を除くこと
地域の扱い	<ul style="list-style-type: none"> 印刷・見栄えを意識した空白を除くこと、県・市等を省略しないこと
数値の扱い	<ul style="list-style-type: none"> 数値データは1セル1データとし、文字列（全角・空白を含む）を混ぜないこと

※コードを付記する場合は、あらかじめ定められたコード（時間軸コード、標準地域コード）を用いること

■ ルールを適用した統計の例

機械判読が不可能

検索や並べ替えなど機械処理に支障

例 1

年次	東京都	出荷本数 <small>括弧は前年度</small>
平成 30 年	1,000	256 (118)
31	2,000	330 (301)
令和 2 年	3,000	13 (33)
3	4,000	409 (398)

例 2・3

例 4

例 1：文字間のスペース挿入
→「東京都」では検索不可能

例 2：記載の省略
→検索や並べ替え不可能

例 3：和暦のみの表示
→元号をまたいだ連続性がなくなり、並べ替え不可能

例 4：1セルに複数値
→文字列として認識、計算不能

機械判読が可能

検索や並べ替えなど機械処理が可能

年次 <small>(西暦)</small>	年次	東京都	出荷本数	出荷本数 <small>前年度</small>
2018	平成 30 年	1000	256	118
2019	平成 31 年	2000	330	301
2020	令和 2 年	3000	13	33
2021	令和 3 年	4000	409	398

年の表記は、西暦又は和暦に西暦を併記する